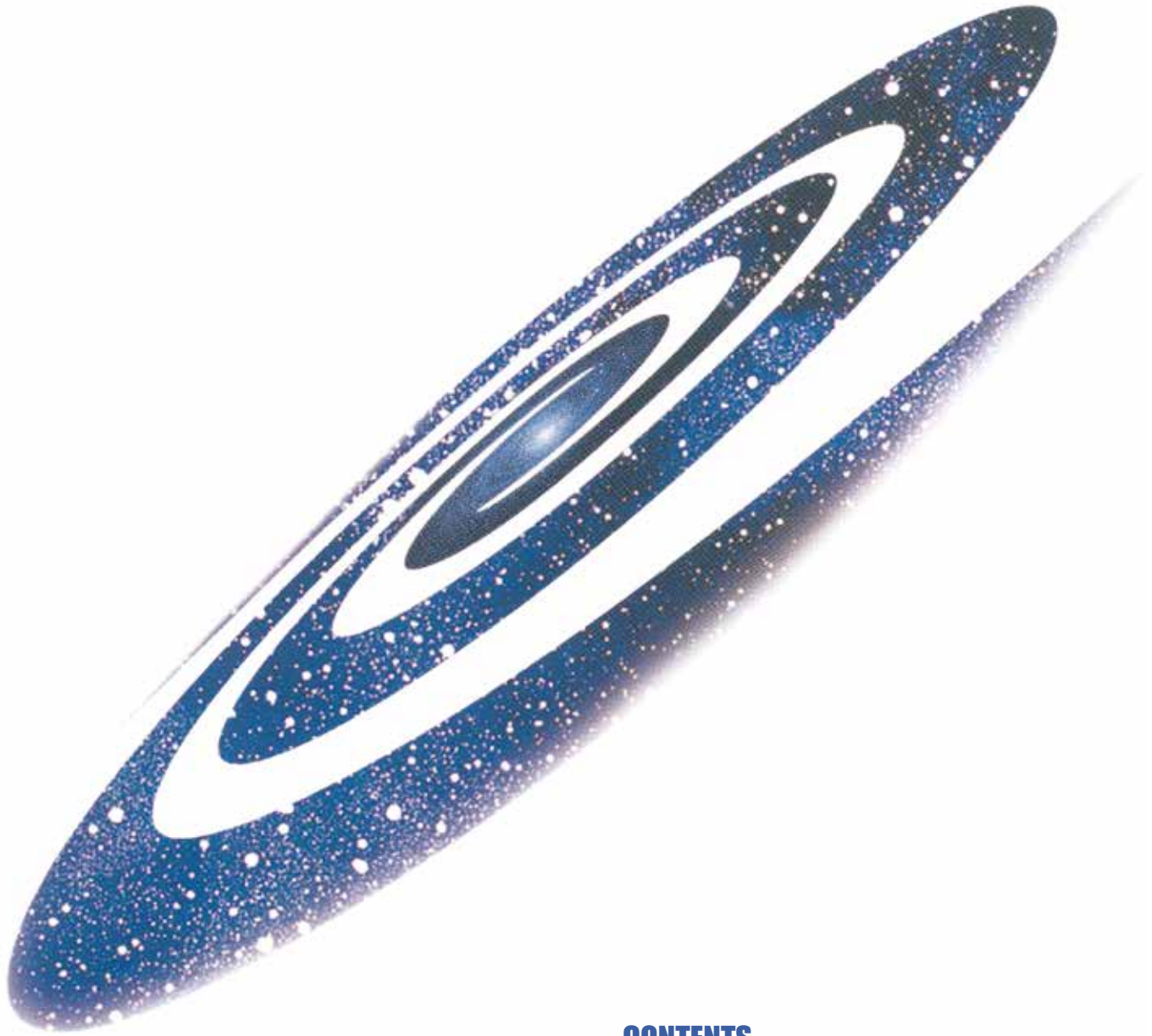


創造

No.
58



CONTENTS

● エッセイ	2
● 第34回「とやま賞」	3
● 「夢の卵」育成事業	6
● きらめき未来塾	8
● アイディアロボットフェスタ	9
● 幼児教育支援セミナー・高等教育振興事業	10
● 平成30年度 財団事業概要	11

エッセイ

大伴家持生誕

一二三〇〇年に寄せて

高岡市万葉歴史館学芸課長

新谷 秀夫 氏



の出世。しかし、死んだ直後に反対勢力の謀略で犯罪者の汚名を着せられ、墓を掘りかえされて息子とともに骨が流される。汚名が晴れるのは二〇年後。そして、ずっと真剣に携わっていた仕事の日を見る、それが『万葉集』。

現代に生きるサラリーマン風にたどると、大伴家持の人生はこのような波瀾万丈なものになります。当時の歴史を記録した『続日本紀』からこのような家持の人生は確認できるのですが、それは「何々の職に就いた」という、あくまでも《記録》のみです。その時々家持が何を考え、どう行動したかは『続日本紀』ではわかりません。それを補うのが、家持が詠み続けた和歌であり、それがおさめられている『万葉集』なのです。ただし、その和歌も四二歳で詠んだ

あした
けふ
けふ
ゆき
いや
し
よこ
よこ
新しき 年の初めの 初春の
今日降る雪の いや重け吉事

幼いころに母と死に別れ、その後父も亡くなり、叔母に育てられる。若い時は多くの女性と浮き名を流したが、育ててくれた叔母の娘と結婚。しかし、はじめて就職したら、仕事の関係で五年間も家に帰れない。

その後、地方勤務で経験を積んで実績を上げたが、本社では反対勢力が擡頭していたので、なかなか出世できずに本社勤務と地方勤務を交互に。多少左遷の憂き目に遭うが、クビになることなく働き続け、退職間際になってやっと、友人の計らいで大抜擢

平元（七二九）年」と「養老二年」の二つの説があつたようなのですが、次に掲げる万葉歌を根拠に、現在は養老二年を有力と考えています。

ふりさけて 三日月見れば
一目見し 人の肩引き
思ほゆるかも

いつ詠んだかを明記しない歌ですが、『万葉集』の編纂基準から、天平五年の作と考えられている家持の初作歌です。もし天平元年生まれならば、わずかに五歳で「三日月を見ると、一目見たあの人の肩が思い出されてならない」という恋歌風の歌を詠んだということになります。さらに、天平二年に大宰府（現在の福岡県）にいたことが『万葉集』から確認できることから、生まれてまもなく首がすわったかどうかという乳飲み子の時に大宰府に行ったとするよりは、ということもあつて、養老二年生まれが有力になっています。

確認とは言えないかもしれませんが、家持の生年は『万葉集』を根拠に推定されているのです。ただ、『わすか五歳では…』や『生まれてまもなくでは…』というように、この推定には客観的な根拠があるわけではありません。もしかすると五歳で初作したかもれませんし、二歳で大宰府に行っただかもれません。あくまでも推定であり、その根拠は史料ではなく『万葉集』という文学作品なのです。残された史料が少ない

古代を考えるには、文学作品とは言え『万葉集』を二次的史料として使わざるをえないのです。客観性が乏しいと感ずるかもしれませんが、『万葉集』に残された記録から家持は養老二年生まれとする説が定着したというのが現状です。

と云うことで、古代に倣って《数え年》で換算し、高岡市は平成二九年を家持生誕一三〇〇年記念の年とし、さまざまなイベントを開催しました。富山県は、現在と同じく《満年齢》で平成三〇年を記念の年と考え、さまざまな記念イベントを開催する予定です。

どちらが正解？ なぜ同じ年にしない？なんて考えず、生誕一三〇〇年を二ヶ年になつてお祝いしませんか。きつと家持は喜んでいるにちがいないはずですから。

プロフィール

新谷 秀夫（しんたに ひでお）

高岡市万葉歴史館学芸課長

大阪府生まれ。関西学院大学大学院文学研究科博士課程後期課程修了。1993年より（公財）高岡市民文化振興事業団高岡市万葉歴史館に勤務。専門は万葉集をはじめとする和歌文学研究。とりわけ近年は萬葉集の享受史と越中時代の家持の歌表現を研究テーマとし、その成果によって2010年第27回「こやま賞」を受賞。上代文学会理事、美夫君志会理事、萬葉学会会員。近著に『越中万葉つがたり』（2010）、「古代史がわかる『万葉集』の読み方」（共著、2011）、「万葉集を旅する」（監修、2013）、「つたわれた富山湾（日本海学研究叢書）」（2015）。

第 34 回

平成29年5月30日(火)

「とやま賞」贈呈式

贈呈式・受賞者スピーチ

「とやま賞」とは？

富山県の置県百年を記念し、富山県の将来を担う有為な人材の育成に資する目的をもって昭和59年に創設されました。

受賞対象者は、富山県出身者または県内在住者で、学術研究、科学技術、文化、芸術及びスポーツの分野において顕著な業績をあげ、かつ将来の活躍が期待される個人または団体の活動を奨励するものです。



金岡選考委員長による講評



石井理事長より賞状・目録贈呈



第34回「とやま賞」贈呈式は、去る5月30日に、富山国際会議場メインホールにて執り行われました。

贈呈式では、受賞者5名に石井理事長から賞状及び奨励金目録が手渡されました。また、各受賞者に、受賞の喜びやこれまでの経緯についてスピーチしていただきました。



受賞者によるスピーチ

今回の受賞者

学術研究部門

医薬分野「薬学」

大阪府立大学研究推進機構21世紀科学研究センター
ナノスケエラ拠点研究所 特別講師



中瀬 生彦 氏

ペプチド化学を用いた細胞内薬物送達と機能制御の基盤技術開発

この度は、第34回「とやま賞」におきまして、私の生まれ育ったふるさとである富山で大変素晴らしい賞を頂きましたこと、この上なく光栄に思っております。私が大学院生時代より日夜研究を進めてきた「ペプチド化学を用いた細胞内薬物送達と機能制御の基盤技術開発」の業績に対する「とやま賞」受賞は、本当に嬉しく思います。共同研究者の皆様、ならびに、関係各位に心より感謝申し上げます。現在、国内のみならず、世界的にもペプチドを基盤とした創薬は大きく注目されており、将来の治療や疾患診断を助ける「候補薬物」となり得るアミノ酸が数個から数十個つながった機能性ペプチドが、日々開発されています。例えば、がん細胞を認識し抗がん作用を示すペプチド、傷の治癒に役立つペプチド等、様々な機能性ペプチドが見出されています。私が精力的に取り組んでいる研究課題の一つに、ペプチドを基盤にした薬物の細胞内導入技術の開発を進めています。代表的な研究として、“膜透過性ペプチド”を用いた薬物送達あげられます。アル

ゴニンに富む膜透過性ペプチドは、細胞膜を効率よく通過して、細胞内（サイトゾル）へ移行する性質をもちます。私の研究では、本ペプチドがどのようにして細胞内へ移行するのか実験を重ねた結果、

“マクロピノサイトーシス”と呼ばれる細胞膜の波打ち構造を伴った細胞内取り込み経路の重要性を発見しました。また動物実験において、膜透過性ペプチドが移植したがんが集積しやすい性質も明らかにし、抗がん剤を膜透過性ペプチドに結合させることでがんの増殖を抑制できることも示しました。最近では、新たに

“エクソソーム”と呼ばれる細胞分泌小胞を基盤とした薬物送達技術の開発において、本膜透過性ペプチドをエクソソーム膜に結合させることで、効果的に分子

量の大きな薬物を細胞内に導入することにも成功しております。ふるさとでの「とやま賞」の受賞は今後の研究において大きな糧になります。私は一層努力をして、医療に貢献できる研究展開が加速できるように、さらに精進したいと強く思います。



伊野部智由 氏

学術研究部門 理工学 富山県立大学 工学部 工学

富山大学大学院理工学研究部（工学）准教授

Unstructured領域を介したプロテアソームによる蛋白質分解の分子メカニズム解明と分解制御技術の開発

この度は、栄えある「とやま賞」に選ばいただき、誠にありがとうございます。このような栄誉は自分に縁のないものと思っておりますので、授賞の通知を受けたときは、唯々驚きました。

授賞式が終わって今思うことは、この栄誉はけっして自分だけの成果ではないということです。私は2011年より富山大学で研究室を主宰する機会をいただきます。富山大学の多岐にわたるサポート体制に加えて、様々な心優しい人々に支えて頂いたからこそ、研究に打ち込め、成果を上げることができたと、改めて感謝しております。

生命活動の主役を担うタンパク質も、様々なタンパク質と関わり合いながら、産まれてから死ぬまでの一生を過ごします。その一生は私たちヒトの一生にも似て、興味深いドラマのようです。私はそのようなタンパク質のドラマに魅せられるようなタンパク質の一生を司る生命システムの理解を目指した研究を行ってきました。

現在私はタンパク質の死を司るユビキチンプロテアソームタンパク質分解システムの研究を行っております。このシステムでは不要なタンパク質に鎖状に連なった「ユビキチン」が取り付けられ、これが目印となり分解を実際に行う「プロテアソーム」へ運ばれることで選択的に分解が起こると考えられ、2004年に発見者らにノーベル賞が授与されています。私はこの分解システムの研究をさらにすすめるためには標的タンパク質へのユビキチンの取り付けだけでは

不十分で、標的タンパク質自身にフラフラと揺らぎ、特定の形を作らない領域が必要であることを世界で初めて明らかにしました。そしてこの発見をもとに、ガンや神経変性疾患の発症に関連するタンパク質の分解制御方法の開発に取り組んでいます。この開発に成功したあかつきには、これまでにない革新的治療法を開発して道を開くと考えています。

今後多くの人たちとの絆を大切にしながら、タンパク質の営みを探る研究に邁進していきたいと思えます。



小西いずみ 氏

学術研究部門 人文社会 富山県立大学 方言学

富山県方言の文法についての言語地学的・記述的研究

このたびは栄えある「とやま賞」を賜り、大変うれしく存じます。審査員をはじめとする財団の関係者のかたがた、これまでご指導いただいた諸先生・諸先輩がた、研究にご協力いただいた皆さま、望む道に進ませてくれた家族に、深く感謝します。

私の研究は、富山県の方言、つまり富山弁の研究です。私自身が富山県富山市で高校までを過ごし、富山弁のネイティブ・スピーカーですので、自分の故郷とその言葉を研究してきたことになりました。とはいえ、高校生の頃は、自分が富山

弁の研究をすることになるうとは、思ってもみませんでした。故郷やその言葉に対する愛着が人より強かったわけでは決してありません。最初に方言に興味を持ったのは、郷土愛からではなく、方言のアクセント（単語を発音するときの高低。例えば富山弁では「雨が」の「め」、「夏が」の「な」が高くなります）に、整然とした「しくみ」があることを、大学で学んだときです。数式や物理法則を「美しい」と感じることに似ているように思えます。富山弁や全国各地のいろいろな方言が、そうした科学としての言語研究の対象になりうると知り、そこに面白さを感じたのです。

大学の卒業論文では、「断定の助動詞」（「あれは学校だよ」などの「だ」）の地域差を調べました。富山県には、標準語と同じ「だ」のほか、西日本的な「じゃ」「や」、中世の文献に出てくる古い「でや」があることが知られていたので、県内各地を回って、その地域差を明らかにし、どのようにそうした地域差が形成されたのかを地域史を踏まえて考察しました。原付バイク（ホンダのスーパー・カブ）で県内各地を回ったのは良い思い出です。今はそのような元氣はもうありませんが…。

その後も少しずつ続けてきた富山県方言の研究を、二〇一六年、一冊の本としてまとめることができ、それが今回の受賞にもつながりました。しかし、まだまだ富山弁には謎が多いのです。今後、ほかの地域の方言とともに富山弁の研究を進め、そこで得られたことを富山の皆さまにお返ししていきたいと思えます。

科学技術部門 植物由来高付加価値機能材料

富山県立大学工学部医薬品工学科 教授



竹井 敏 氏

植物の活用によるナノ・マイクロ微細加工用機能性高分子電子材料の創出

「とやま賞」の受賞について富山県の皆様から温かいお言葉をいただき、感謝申し上げます。「ナノ・マイクロ微細加工用機能性高分子材料」の教育研究を平成22年から進めるにあたり、初めはまったく期待外れの材料特性しか示さず、夜遅くまで一緒に取り組みました富山県立大学の研究室の学生さんやご支援いただいた関係者様にご迷惑をおかけして申し訳ありません。このような研究状況にもかかわらず、貴重な研究費を継続的に支出していただき、辛抱強く指導して頂いた富山県立大学の教職員の皆様を始め、富山県工業技術センターや富山県新世紀産業機構の皆様には心からお礼申し上げます。

「ナノ・マイクロ微細加工用機能性高分子材料」の更なる高付加価値化や新事業として育成可能な「研究の種」の創出が産業界から要望される一方、競争激化の中で、いままでも以上に研究時間をかけることが許されない研究環境となりつつあります。今後、市場動向を正確かつ迅速に情報収集して、的確な研究方針・実験計画を定め、持続的な成長ができるよう

取り組みます。

具体的には、教育研究においては、企業研究者の同席の下、教授も学生も対等で議論ができる研究環境を意識して、自由・活発な雰囲気をととても大切にしています。学生も技術的議論に参加すべく、社会人としても通用するプレゼンテーション準備や国際交流への参加に関心をもち学生が増加してきました。今年度も研究室の大学院生は全員、海外留学・学会発表の経験者となりました。今後も、組織の中で自分の仕事を認識でき、専門分野のプロフェッショナルである国際人を育成してまいります。

地域連携においては、世界トップクラスの国内外の研究機関と技術協力体制を構築・維持し、富山県ものづくり産業の発展と技術の向上に寄与できる産学連携を進めていきます。特に、「高分子設計」と「ナノ加工技術」を武器にして、医薬品の分析デバイス・多機能プラスチック・機能性包装材料とそれらの成形加工に関する地域連携を加速していきます。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

スポーツ部門

ALSOK

柔 道



田知本 遥 氏

リオデジャネイロ五輪金メダル獲得等世界での活躍

この度は栄えある「とやま賞」を頂き、誠にありがとうございます。

小杉町で育ち、小杉小、小杉中、小杉高と歩み、「柔道の町小杉」で小学校低学年から柔道に打ち込んで参りました。柔道をするために越境してくる人もいます。私は、The 小杉人でした。柔道をするのが必然だったかのような環境に恵まれていたと思います。

私自身の中では、正直、柔道が好きで続けてきたという訳ではなかったと公言していますが、母が言うには「そんなことないよ、幼い頃から柔道しているときいきいきしていたよ」と、当時を振り返り話してくれました。体を動かすことが大好きだったので、幼い頃は、陸上や、一輪車、公園にあるクライミングなどにも積極的に取り組んでいたのが印象深いです。できなかったことができるようになることが楽しみで、難しいと思えることにも挑戦していました。そのためにも時間も忘れて、外が暗くなるまで、そして、擦れている傷を忘れるくらい熱中してしまいう子でした。おそらく柔道に対しても、技や組み合わせは無数にありますので、新しく覚えていくことに熱中していたのだと思います。そして、難しいことに挑戦したい子でしたので、男の子にも負けない気持ちで試合には挑んでいました。

そして私の富山での柔道人生を振り返ってみて、指導者にもたいへん恵まれていたと思います。昨今、スポーツにおける過度な指導による問題も話題に挙がりますが、私に至っては一度もそのような指導を受けたことがありません。小学生の頃は、基本と楽しく柔道が続けることを学び、中学になれば技の幅や基礎体力を伸ばしてもらい、高校生には自分で考える大切さを学びました。

昨年夏、私がリオオリンピックで金メダルを取れたことで、身をもってそのような指導の在り方を証明できたのかなと思います。

私も、あなたが指導者で良かったといつてもらえるような人材になりたいと思います。

この度はありがとうございました。

おしらせ

第35回「とやま賞」贈呈式

日時：平成30年6月5日（火）

贈呈式 13時30分～14時00分

受賞記念講演 14時10分～15時50分

場所：富山国際会議場メインホール

※申込不要で、どなたでも参加いただけます。

お問合せ先

TEL：076-444-2000 / FAX：076-444-2001
E-mail:toyama-award@t-hito.or.jp http://www.t-hito.or.jp/zaidan/

夢の卵★ 育成事業

この事業は、ノーベル物理学賞を受賞された小柴昌俊さんの「子どもたちには『夢の卵』を持ち続けてほしい」とのメッセージにちなんで企画されました。子どもたちに「いくつもの『夢の卵』をもってもらおうこと」、「『夢の卵』を温めてもらうこと」、そして「『夢の卵』を孵すこと」を支援し、自分の将来を考えてもらうきっかけづくりをねらいとして、平成16年度から実施しており、今年で14回目となりました。

4月中旬から5月にかけて、県内の小学校5、6年生と中学校1、2年生を対象に、「将来の夢（＝夢の卵）」を書いた作文を募集し、その中から選ばれた4名の児童生徒が、各分野の第一人者に短期入門をしました。また、より多くの子どもたちの夢を応援するため、次点となった作品を佳作として表彰しています。

小学生の部（応募数1,568作品）

子どもたちの健康と笑顔を守り 明るい未来を支える小児科医になりたい

小矢部市立石動小学校6年 井上 萌々子 さん

自分が過去に診察していただいた小児科の先生への憧れから、医師という職業に興味を持ち、将来は自らの手で子どもたちを元気にして、地域の発展に貢献したいという気持ちを持って、富山大学医学部小児科学教室に入門しました。



体験記
より

今回の入門では、小児科医の「子どもを第一に守る」という使命感を感じることができました。また、この貴重な経験が無駄にしないように、夢にむかってがんばっていきたいです。



聴診器で赤ちゃんの心音を聴きました。



赤ちゃんの救命救急の練習です。



ナチュラリストの活動について教えていただきました。



火山ガス対策ステーションでモニターを見せてもらいました。

自然保護官になりたい

立山町立利田小学校5年 大島 小百合 さん

自然が大好きで、それを守り続けたいけれども、人間による環境破壊のため、多様な生物が生きにくくなっている現状を変えたいという強い気持ちを持って、立山自然保護官事務所に入門しました。



体験記
より

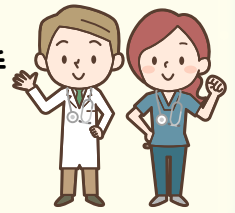
立山の安全と自然は、自然保護官をはじめ、たくさんの人によって守られていることが分かりました。また、身近な自然を守るためには、美しい自然を「見て伝えること」が大事だと教わりました。これからは、多くの人に自然の大切さを知ってもらい、みんなで自然を守っていかたいと思いました。将来は、自然保護官になりたいという気持ちがより強くなりました。



平成29年度 夢の卵表彰式



- ① 医師
- ② サッカー選手
- ③ 野球選手
- ④ 保育士
- ⑤ パティシエ



＜今年度の短期入門者数と応募数＞

応募数	小学生の部	1,568作品	中学生の部	926作品
表彰	小学生の部	優秀賞（短期入門）2名	佳作	15名
	中学生の部	優秀賞（短期入門）2名	佳作	19名

中学生の部（応募数926作品）

地質学者になりたい

小矢部市立大谷中学校1年 原 唯七 さん

一冊の本との出会いから、地層に隠された小さな生き物に興味を持ち、地質学者になって地球の昔の姿を知りたいという気持ちを持って、名古屋大学環境学研究科に短期入門しました。



珪藻について教わりました。



珪藻化石のプレパレートを作りました。



地質学者は根気のいる仕事だと思いました。しかし、入門を終えて、ますます興味が湧き、もっと珪藻のことを知り、地質学者になりたいと思いました。一步一步、日々努力して夢に近づけるように頑張りたいとおもいます。

地域づくりに貢献する警察官になりたい

片山学園中学校2年 藤井 柚衣 さん

毎日のニュースになる犯罪を、犯罪心理学の面から分析して再犯をなくしたい、また被害者側の気持ちに寄り添うことのできる警察官になりたいという正義感と強い決意を持って、富山県警察本部に短期入門しました。



交通管制センターを見学しました。



薬物反応を調べる実験をしました。



科学捜査研究所での体験で思ったことは、事件の解明には科捜研の検査1つ1つがとても大切なのだということです。説明を聞いたり、体験してみたりして、将来は、科捜研の仕事に就いて地域に貢献したいと、あらためて思いました。

子どもたちの発想力や創造力、ユーモアのセンスなど多様な可能性を引き出す目的で、各分野で活躍されている方を講師にお招きし、夏休み期間中に3つの道場を開催しました。

右脳活用道場

直観的なイメージ、柔軟な発想力、創造力を形にする表現力を育てる

講師：森 みちこ 先生（漫画家）

昨年に引き続き森みちこ先生（漫画家）を講師に迎え、漫画作りを通して、自分のアイデアを絵と言葉で表現する手法を学びました。

みんなに読んでもらう作品として仕上げることを体験することで、自分のイメージや思いを伝える絵や言葉の展開、表現方法の難しさと、1つの作品が出来たときの達成感を味わいました。

※みんなが描いた漫画は、1冊の漫画本としてまとめました。「トマイブックス」で電子書籍を見ることができます。

- [7/27] 自己紹介イラストを描く
- [7/31] 4コマ漫画を描く
- [8/ 3] ショートストーリー漫画を描く
- [8/10] 漫画原稿の仕上げ



個別指導

森先生と記念撮影

きらめき未来塾

秋山仁先生「スペシャル公開授業」



パズルくるりんぱ



タングラムに挑戦

思考道場

ゲーム感覚で数学的な考え方を磨き、柔軟な思考力・発想力を育てる

講師：金森先生、杉田先生、大甲先生、滝脇先生、松原先生（県内小学校教員5名）

多くの応募者の中から選ばれた32名の入門者は、さまざまな操作活動を通して“算数の楽しさ”を体感しました。今年は、3年ぶりとなる「秋山仁先生のスペシャル公開授業」を開催し、うそを見抜くマジックなど算数の面白さを体感しました。

- [7/25] 「すごろくドボンゲーム」「数理ゲーム」
- [8/ 1] 秋山仁先生「スペシャル公開授業」
- [8/ 8] 「くるりんぱ」「d&ますの不思議」
- [8/22] 「タングラム」「ひと筆書き」

お笑い道場

落語を学び、ユーモアセンスと表現力を育てる

講師：安野家 仁楽斎 氏
（社会人落語家、フリーアナウンサー）

本物の落語を味わい、扇子の使い方や落語を話すときの視線の配り方、しぐさ等を学び、また、実際に高座に上がって自己紹介したり落語のオチを練習したりしました。お笑い大会では会場に集まった家族の皆さんに、小咄や謎かけを披露しました。

- [8/ 4] 大きな声で会話しよう
- [8/ 9] 自分を表現しよう
- [8/18] 小物を使って
- [8/27] お笑い大会（発表会）



お笑い大会 小断披露



高座に上がって自己紹介



お笑い大会 紅白大喜利

アイデアロボットフェスタ

期間中、県内の中学生、高校生、高専生が製作した
アイデアあふれるロボットを展示するほか、2日間の「チャレンジデー」を設け、
見て・聞いて・触れて楽しめる機会を提供しました。



中学生・高校生・高専生によるロボット展

期間：平成29年12月9日（土）～平成30年1月14日（日）
場所：富山県教育記念館1階

コンテストや競技会へ出品されたロボットをはじめ、県内の中・高・高専生が日頃の研究の成果として製作したロボットを一堂に展示し、各校の日頃の研究の成果を披露しました。

ロボット出展校

(五十音順)

- 【高等専門学校】 富山高等専門学校射水キャンパス
富山高等専門学校本郷キャンパス
- 【高等学校】 魚津工業高校 高岡工芸高校 砺波工業高校
富山工業高校 不二越工業高校
- 【中学校】 富山市立大泉中学校 富山市立三成中学校
富山市立城山中学校 富山市立新庄中学校



チャレンジデー 1月13日・14日開催

■講演会 (場所：高志会館カルチャーホール)

「妄想 (= アイデア) を形にする方法」と題して、作家乙幡啓子さんに、日頃の生活からユニークなアイデアを引き出すコツや物を作る楽しさなどについて、ご講演いただきました。



■デモンストレーション (場所：高志会館カルチャーホール)

工業高校生や高専生が、コンテスト会場を再現したステージで、それぞれ製作したロボットを実際に動かしてもらいました。ロボットが動く様子を間近で見ることができ、また、生徒たちにとっては、日頃の活動の成果を披露する場となりました。



■ロボット作り教室

教室①「リモコンブルドーザーロボット」



28名の参加者は、富山工業高校の生徒の指導の下、リモコンをコントロールして、前後左右に動かすブルドーザーロボットを工作しました。完成後は、文具などを押ししたりして、出来具合を試していました。



教室②「紙コップすもうロボット」



8名の参加者は、中学校の技術・家庭科の先生の指導の下、紙コップで相撲ロボットを工作し、リモコンで操作しながら相撲対決をしました。それぞれのロボットにしこ名をつけ、富山場所を開催し、トーナメント方式で対戦しました。

こんな事業もしています

幼児教育支援セミナー

「接遇・コミュニケーション研修」

講師：株式会社よしもとコミュニケーションズ
一般社団法人 キャリア教育協会 認定講師
秋田 幸子 氏

このセミナーは、幼稚園や保育所において、保育者としての接遇やコミュニケーション能力を向上していただくためのものです。

毎回20名程度の参加があり、グループワークを通して、接遇・コミュニケーションのポイントを学んでいただきました。

第1回 今こそコミュニケーションセンスを磨くとき！

— 知らないと損するかかわり力のコツ —

第2回 今こそコミュニケーションセンスを磨くとき！

— 魅力アップ！「たかか」のかかわりが信頼を積み上げる —

第1回



第2回

高等教育振興事業

県内の4年制大学など高等教育機関が実施する教育研究活動及び地域連携活動等に対する支援（助成金の交付）を通じて、本県の学術、文化及び産業の発展を図りました。

（29年度の助成見込み：45件 20,366千円）

- 学会・シンポジウム等の開催に対する助成事業
- 公開講座等の開催に対する助成事業
- 著名研究者等による学術講演会の開催に対する助成事業
- 研究助成事業（若手研究者育成枠・地域課題解決枠）
- 大学連携支援事業
- 私立大学振興事業（学生確保推進支援・大学活性化支援）

ひとづくり財団からのお知らせ

富山県教育記念館の会議室ご利用案内



富山県教育記念館では大会議室1（収容人数：60名）、会議室3（収容人数各24名）の計4室を貸し出ししています。会議や講演会等でのご利用をお待ちしています。

ご利用のお問合せ・お申し込みは、
当館1階受付 TEL：076-433-2770 まで

※受付時間 祝日を除く8時30分から17時まで

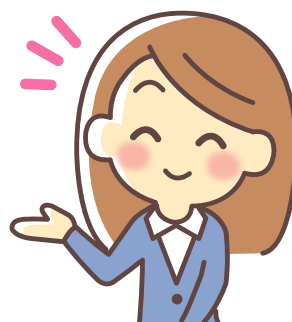
ご利用料金、空き状況などは、下記URLから確認できます。

<http://www.t-hito.or.jp/reserve/>

賛助会員の募集

富山県ひとづくり財団では、広く財団の目的に賛同される個人、法人の方々に賛助会員としてご協力いただきたいと考えております。多くの皆様のご賛同をお願いいたします。

- 年会費：法人会員 年一口 30,000円
個人会員 年一口 3,000円
- 特典：機関紙の定期配布（年1回）、イベント等の開催案内、各種報告書等配布、県の情報誌、冊子等の配布
- 申込方法：入会ご希望の方は、財団へご連絡ください。



平成30年度 富山県ひとづくり財団 事業概要

1 人づくりに関する調査研究及び普及活動

① とやまファン倶楽部事業

富山県をこよなく愛し、全国から富山県を応援する方々のヒューマンネットワークづくりを推進します。

② 幼児教育支援セミナー開催事業

③ 退職教員等活用推進事業

退職教員や民間企業の人材を登録し、学校現場へ紹介することにより、学校における人材確保と優れた指導実践の継承を図ります。

2 元気で創造性豊かな子どもの育成事業

① 「夢の卵」育成事業

② 「きらめき未来塾」事業

右脳活用道場（漫画）、思考道場（算数）、お笑い道場（落語）

③ 「高校生とことん科学セミナー」開催事業

数理科学の分野で世界的に活躍する人材を育成するため、各専門分野の第一線で活躍されている科学者・数学者を招いて、高校生を対象に最先端の研究に関する講義と、ひざを交えた交流会を行います。

④ 「アイデアロボットフェスタ」開催事業



3 元気な地域づくり事業

「学ぼう！ふるさと未来」支援事業

ふるさとに学び、ふるさととともに生きる地域活動を実践等している小学校を支援します。

4 優れた人材育成支援事業

「とやま賞」贈呈事業

5 教育の歴史文化に関する文献の収集・保管・展示

① 特別展及び恒例展の開催

富山県教育記念館1階 展示スケジュール

【特別展】	4 / 18 ~ 5 / 27	「富山県内の幼児教育 (幼稚園・認定こども園)活動紹介展」
【恒例展】	6 / 6 ~ 7 / 8	「児童・生徒によるものづくり展」
	7 / 18 ~ 8 / 26	「さんすうワールド展」
	9 / 5 ~ 10 / 7	「子どもの目・自然不思議発見写真展」
	10 / 12 ~ 10 / 21	「教職員厚生会退職厚生部富山支部会員作品展」
	10 / 26 ~ 11 / 11	「特別支援学校・みんながんばってます作品展」
	11 / 17 ~ 12 / 2	「富山県造形教育作品展」
	12 / 8 ~ 1 / 20	「アイデア ロボットフェスタ」ロボット展
	1 / 25 ~ 2 / 10	「富山県中学校美術展」
	2 / 20 ~ 3 / 24	「富山県版造形教育作品展・秀作回顧展」

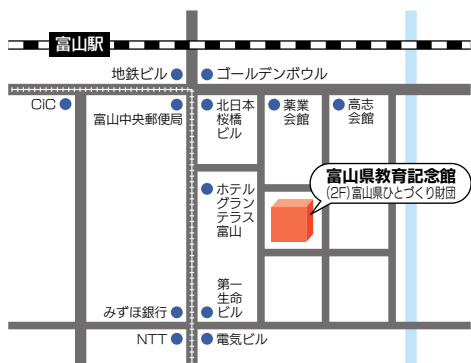


② 教育資料収集

富山県の教育の歴史や文化に関する文献や資料の収集及び整理を行い、各種教育展示等で利用します。

6 高等教育振興事業

7 教育記念館管理運営事業



公益財団法人 富山県ひとづくり財団

〒930-0018 富山市千歳町1-5-1 富山県教育記念館2階
TEL (076) 444-2000 FAX (076) 444-2001
e-mail:toyama@t-hito.or.jp <http://www.t-hito.or.jp>

平成30年3月発行